

はきものをそろえる

平成22年11月第4週放送

曹洞宗のポスターのなかに次のような詩があります。

『はきものをそろえると心もそろう　　心がそろうとはきものもそろう
ぬぐとくにそろえておくと　　はくとくに心がみだれない
だれかがみだしておいたら　　だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと　　世界中のひとの心もそろうでしょう』

自分の履物はきものを確認してみてください。乱れてはいませんか。もし乱れていたら直しておきましょう。まずは自分の心をそろえます。

そして、「だれかがみだしておいたら、だまってそろえてあげよう。」

「そろえてあげたんだから」ではなく、何も求めることなくただそろえてあげる。これが大事なことです。

これは、今日からでもできることです。こんな些細ささいなことですが、それを積み重ねていけば世界中の人々の心がそろう。そして世界を変えることもできるのではないのでしょうか。

「自分ひとりがやっても変わらない。」という言葉が聞きますが、自分がやらなければ何もかわりません。一人ひとりがそう思わなくてはいいけません。まずは自分が実践しましょう。

こうしてみると、「はきものをそろえる」ということは、ただそれだけのことでなく、奥の深いものがあります。

自分の足元をしっかりと見つめ、自分の行動にはしっかりと責任を持ち、できる限り他の人に対しても思いやりを持って接していく積み重ねが、大勢おおぜいの人々にも広がっていくに違いありません。

お寺の玄関などで「脚下きやつか照しょう顧こ」(脚下を照顧せよ)という言葉をよく見受けますが、これは、「自分の足元をしっかりと見つめよう」ということです。

はきものをそろえることも自らの足元をよく見つめることから始まります。

私たちも、日常生活のなかで常に自分の心をよく見つめ、足元をしっかりと見据みすえていきましょう。